



# 空自の曲技飛行中止を 2団体知事らに要請

香川県の「郷土かがわを戦場にするな！」県民連絡会と、明るい民主県政をきずく香川県連絡会は8日、今月末に善通寺市や丸亀市などの市街地上空で行われ

る航空自衛隊の曲技飛行チーム「ブルーインパルス」の展示飛行などを中止するよう地元の自衛隊や知事など5カ所に申し入れました。

陸上自衛隊第14旅団が今

月27日に善通寺駐屯地で開く記念行事で、展示飛行のほか、機動戦闘車や装甲車の市パレード、模擬戦闘訓練などが行われます。県民連絡会などは展示飛行の中止と、機動戦闘車や装甲車など実戦で用される車両が市パレードをしないよう求めました。

要請で、県民連絡会の共同代表で日本共

丸亀市（定数24、立候補29）では、日本共産党の中谷まゆみ氏（58）＝現＝、ささい孝志氏（71）＝新＝の2氏が、1増の2議席で議案提案権の獲得をめざし立候補しました。

中谷・ささいの両候補は▽国保税の大幅引き下げ、▽待機児童ゼロ、保育士増員▽高齢者のタクシースケッチ交付等を訴えています。

中谷氏は出発式で、「丸亀市民の生活を苦しめている国政を大本から変えることに繋がる大事な選挙。皆さんの思いをしっかりと背

負って再び働けるように全力を尽くす」とのべました。



らしている」と賞賛。NHKのこの番組では、女性の低年金や貧困の問題にふれず、年金が少なければ生活保護で不足分を補う手立てがあることも知らせていない。

憲法25条で「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と生存権が保障されているにもかかわらず、年金が少なくても自己責任で何とかすべきという意図を感じた。国民年金は、40年払い続けても月6万5千円。厚生年金も男性の平均は約16万7千円、女性は約10万7千円。男女の賃金格差や家庭での役割の負担の違いが格差を生んでいる。

今国会で基礎年金の底上げが先送りされたが、消費税の減税と共に基礎年金の引き上げを早急に実現することが、国民生活を豊かにし経済の好循環を生むと考える。

(三)

民主香川

定価 月 100円  
発行所  
**民主香川社**  
高松市藤塚町  
3丁目13-14  
☎(087)834-7311

産党の樫県議はブルーインパルスの展示飛行について「過去5回もの重大事故が確認でき、安全確保の観点から強く中止を要請する」と訴えました。9条の会の十河浩二事務局長は「日本は平和憲法を持つ戦争をしない国。戦争や自衛隊を公然と賛美する、戦争をする国への下地づくりを許してはならない」と述べました。昨年の9月、辻村修善通寺市長は三宅伸吾参院議員・現防衛大臣政務官にブルーインパルスの展示飛行を要請。市長は今年3月、中谷元防衛大臣や防衛省、大野敬太郎衆院議員、佐藤正久、三宅伸吾両参院議員などに表敬訪問し、展示飛行の選定に謝辞を表していました。

# 異台鼓太

NHK教育で「明日も晴れ、人生レシビ」という番組が今年3月まで放送されていた。50代以降、「これからどんな人生を歩んでいきたいのか」と問い始めた人たちを応援し、生活を豊かにするヒントを届けるというコンセプトだ。

讃岐の文学碑めぐり ②⑦

男木島出身の流行作家

西村 望（にしむら・ぼう 一九二六～二〇三二）

文・写真 深沢 雨根

西村望（本名の読みは「のぞむ」）は、高松市男木島の生まれ。大連市乙種工業高等学校卒。四歳年下の弟は、ベストセラー作家になった西村寿行である。小説家の多くは東京か、鎌倉あたりに住んでいるが、西村望は高松市在住の作家であった。JR高松駅の近くに仕事場を設け、毎日そこに出勤して小説を書いた。二〇二二年八月、96歳で没。満鉄社員、旅行ライター、テ

された。八六年には『犬死にせしもの』が、九二年には『火の蛾』が映画化（題名は『死んでもいい』）された。

「塩江町ホテルと文化の里公園」の遊歩道に、一九九四年七月、西村望の詩碑が建てられた

旅のひぐさ／＼／＼帰る  
かなかなど／＼啼きもせず  
かなかなど／＼泣きもせず  
旅のひぐさ／＼／＼帰る  
その近くに二〇〇〇年五月、

レビリポーターなど様々な職を経て、一九七八年、『鬼畜』でデビュー。52歳の遅咲きであった。『薄化粧』『丑三つの村』『刃差しの街』が次々と直木賞候補になり、たちまち社会派犯罪小説の第一人者になった。『薄化粧』は、新居浜市の別子銅山社宅で実際に起きた事件をもとにした小説で、一九八五年に映画化（松竹、主演・緒形拳）

句碑も建てられた。

行き暮れて今日もひとり

文芸評論 家の澤村健によれば、西村望は「野太い声」と「大きな



「厚い手」をもち、「精悍な顔」をしていた。評論家の川本三郎も、「あの風雪に耐えた風貌は野武士と呼びたい」と語っている（いずれも『風吹き鴉』あとがき）。

西村兄弟は、長い雌伏期間を経て流行作家になった。高松沖の小さな島に生まれ、さしたる家柄でもなく、学歴があるのでなく、弟の寿行は四〇代で、兄の望はさらに遅れて五〇代でデビューした。兄弟が二十年ぶりに酒を飲んだとき、寿行が「ここまでこれたこの現実を、だれに感謝したらいいのかね」と問うと、望は「だれでもいいからとにかく感謝し、謙虚に暮すしかないんじゃないかね」（『虫の記』）と答えている。

仁孝天皇  
御遷御  
御葬所

句碑(塩江町)